



週刊 前 防衛副大臣
おにき誠 まこと



古川貞二郎さん御葬儀

東京増上寺で行われた古川貞二郎さんの御葬儀に参列しました。

古川さんは九州大学法学部から厚生省に入り、厚生事務次官を経て、官僚のトップと言われる内閣官房副長官に就任されました。官房副長官として8年7ヶ月にわたり、村山、橋本、小淵、森、小泉の5つの内閣を支えました。

私が衆議院議員に当選した後、九州大学法学部同窓のよしみを頼りに、東京で開催する政経フォーラムの発起人をお願いに行きました。「あまりこういうのは引き受けてないのだけれど」と言いながらも、結局発起人に名を連ねていただきました。

無私にして公正、温厚な人柄で歴代政権の難しい舵取りを担ってこられました。現役官僚からの信頼と尊敬も格別でした。

年に数回は麹町の事務所を訪問させていただき、様々なお話を聞かせていただきました。一度だけ私と意見がぶつかったことがありました。しかしその論点については、それ以来お互い深く議論をすることはありませんでした。おそらくお互いに譲れないし、ぶつかりたくなかったのではないかと思います。

最近ではコロナ禍もあり、あまりゆっくりお話することができませんでした。もっといろいろなお話を聞きたかったなあと悔やまれます。いただいたご著書を読み込んで、自ら学ぼうと思います。遺影のままの優しい笑顔で、安らかにお眠りください。



南洋諸島訪問記

先々週に引き続き、南洋諸島訪問記です。

過去の「週刊おにき誠」はホームページの広報紙ページからご覧いただけます。

「ペリリュー島 慰霊訪問」

今年1月に硫黄島を訪問し、今年5月にマンガ「ペリリュー楽園のゲルニカ」を読んで以来、「上皇上皇后両陛下が慰霊訪問されたペリリュー島に、私も慰霊に行きたい!」という思いが高まり続けていました。パラオ共和国には軍がないため、防衛省が公務で訪問するのはハードルが高かったのですが、このたび日本政府がガダルカナルの戦い80年慰霊式典に招待されたことから、帰り道に給油と防衛交流を兼ねてパラオに立ち寄ることが可能となりました。パラオで一番都会のコロール島から、船でペリリュー島に向かいました。青く美しい海に浮かぶ緑の島々を抜けると、ペリリュー島が見えて来ました。補給も途絶えて弾も食糧もない中で持久戦を戦い、日本に帰りたくて願いが亡くなった一万の魂に「助けに行けなかったけど、忘れてないからね。迎えに来たよ!」と心の中で叫ぶと、一人涙が溢れてきました。

「西太平洋戦没者碑」

大戦の激戦地ペリリュー島に上陸し、上皇上皇后両陛下がご訪問された西太平洋戦没者碑に献花しました。両陛下と同じようにアンガウル島にも一礼しました。ガイドの方が「こんなに天気の良い日は珍しい」というような穏やかな風と晴天でした。日本から持参した水、米、酒、塩、豆をお供えし、お線香を焚きました。齋藤聡海幕副長は「甘いものも食べたかったです」と虎屋の羊羹をお供えされました。御霊の安らかならんことを心から祈念いたします。

「ペリリュー各所を慰霊訪問」

激戦により血染めの海となったオレンジビーチを訪問しました。ビーチから上陸したところにある米陸軍第81歩兵師団慰霊碑にも慰霊献花。激しく戦ったかつての敵ではありますが、日本兵同様に鎮魂を願い参拝しました。さらに海軍航空隊司令部跡に行きました。コンクリートや鉄扉、相当頑丈に作ってあったにもかかわらず、800kg爆弾が落とされ巨大な穴が開いていました。ガダルカナル島とペリリュー島で何か所もお供えをしましたが、残すお供えもあと1セット。最後のお供えは千人塚に持って行くことにしました。持久戦に備えて千人が立て籠もることができるよう作られた巨大な塚です。塚は厳しい持久戦を象徴する存在です。塚内に入り、ここで戦い抜いた先人に思いを馳せました。



おにき誠 後援会事務所

〒810-0014
福岡市中央区平尾2-3-15-2F
Tel.092-707-1972

おにき誠公式ホームページ
LINE公式アカウント
Facebook ページ
Twitter公式アカウント

おにき誠 プロフィール

- 昭和47年10月 福岡市生まれ
- 田島小学校 (城南区) 卒
- 当仁中学校 (中央区) 卒
- ラ・サール高校卒 ● 九州大学法学部卒

平成 7年~14年 西日本銀行 (西日本シティ銀行) 渡辺通支店~大名支店

平成15年~24年 福岡県議会議員 (3期10年)

平成24年 12月 衆議院議員に初当選

平成27年 10月 環境大臣政務官就任

令和 3年 10月 防衛副大臣就任
衆議院議員再選 (4期目)